

4. 1 茗加 瑞一(用度係)経理係より
 大谷 浩一(用度係)経理係より
 麻尾 昌子(学務第二係)ドイツ語より
 山根 和子(厚生補導係)人事係より
 尾崎美枝子(情報行動)学務第二係より

4. 1 松村いく子(保健体育)厚生補導係より
 ≪改姓≫
 3. 7 山根 和子(人事係) 旧姓 松原
 4. 1 柿田由紀子(庶務係) 旧姓 吉岡

海外渡航者

(出張および研修)

- | | |
|---|----------------------------|
| 式部 久 (ヨーロッパ研究 教授) | 栃木 省二 (自然環境研究 教授) |
| 渡航先 アメリカ合衆国, 連合王国, フランス | 渡航先 インドネシア |
| 目的 大学における一般教育改善動向調査 | 目的 熱帯地域における第三紀地すべり実体調査 |
| 期間 53. 3. 5~53. 3. 24 | 期間 53. 7. 25~53. 9. 6 |
| 熊丸 尚宏 (自然環境研究 助教授) | 佐藤 道郎 (ドイツ語 助教授) |
| 渡航先 アメリカ合衆国 | 渡航先 台湾 |
| 目的 自然環境における微量元素の動態解析に関する研究 | 目的 敦煌写本の研究 |
| 期間 53. 3. 30~54. 3. 25 | 期間 53. 6. 21~53. 7. 1 |
| 小野 寛晰 (情報行動基礎 助教授) | 福田 幸夫 (ドイツ語 助教授) |
| 渡航先 ポーランド | 渡航先 アメリカ合衆国 |
| 目的 数理論理学における代数的方法の研究 | 目的 ドイツ語教授法の研究 |
| 期間 53. 4. 28~53. 6. 5 | 期間 53. 6. 30~53. 8. 30 |
| 頼 祺一 (日本研究 助教授) | 今井 光規 (英語 助教授) |
| 渡航先 連合王国, オランダ, ドイツ連邦, オーストリア, フランス | 渡航先 連合王国 |
| 目的 第7回国際経済史学会出席および情報交換, 資料収集 | 目的 英語の統語法と文体発達の研究 |
| 期間 53. 8. 5~53. 8. 30 | 期間 53. 7. 3~53. 9. 20 |
| 樹下 行三 (情報行動基礎 教授) | 丹治 信義 (ドイツ語 助教授) |
| 渡航先 フランス, オーストリア, 連合王国 | 渡航先 ドイツ連邦共和国 |
| 目的 第8回耐故障計算機システム国際シンポジウム出席並びに計算機システムの研究調査 | 目的 ゲーテ・インステットウト ドイツ語講習会参加 |
| 期間 53. 6. 18~53. 7. 4 | 期間 53. 6. 30~53. 10. 2 |
| 小林 惇 (人間行動研究 教授) | 戸田 吉信 (ヨーロッパ研究 助教授) |
| 渡航先 バミューダ, アメリカ合衆国, カナダ | 渡航先 フランス, スペイン, イタリア, ギリシア |
| 目的 興奮の神経筋伝達に関する比較生理学的研究 | 目的 フランス語教育の調査研究 |
| 期間 53. 7. 1~53. 8. 31 | 期間 53. 7. 18~53. 9. 10 |
| 村瀬 延哉 (フランス語 講師) | 館山 豊 (英米研究 助手) |
| 渡航先 フランス | 渡航先 アメリカ合衆国 |
| 目的 17世紀フランス文学特にコルネイユの演劇研究 | 目的 アメリカ経済及びアメリカ石油産業の研究 |
| 期間 53. 6. 29~54. 7. 1 | 期間 53. 7. 1~54. 5. 31 |
| | 中根 周歩 (自然環境研究 助手) |
| | 渡航先 大韓民国 |
| | 目的 韓国における環境変遷史の調査 |
| | 期間 53. 7. 10~53. 10. 30 |

昭和53年度下記委員会委員

○コース・講座委員会

(委員長) 陣 崎 克 博 秀 敬
 上 杉 文 世 富 永 晃
 久 野 昭 安 藤 貞 雄
 志 村 賢 男 佐 藤 道 郎
 今 中 比呂志 北 村 靖 治
 水 上 孝 一 小 林 惇
 重 中 義 信

○学務委員会

(委員長) 小 林 惇 佐 田 公 好
 頼 祺 一 根 平 邦 人
 水 島 裕 雅 松 田 正 典
 中 峯 照 悦 保 田 茂 次 郎
 高 崎 禎 夫 藤 本 黎 時
 磯 道 義 典 本 田 和 親
 黒 川 正 流 中 川 正 之
 田 代 嘉 宏 荒 井 貞 光

○就職委員会

(委員長) 山 田 浩 小 野 茂
 渡 辺 則 文 井 上 千 吉
 村 上 誠 大 内 侃
 山 崎 俊 雄 松 尾 博
 舟 場 正 富 松 本 昭 男
 樹 下 行 三 官 原 満 男

○学生生活委員会

(委員長) 高 本 友 彦 吉 仲 正 和
 前 田 利 昭 鈴 木 達 彦
 大 石 俊 一 熊 澤 一 衛
 田 村 和 之 竹 島 俊 之 堯
 小 野 寛 晰 小 村 堯
 田 所 佑 士

○広報委員会

(委員長) 小井手 土陽男 江 口 正 晃
 清 水 廣一郎 橋 本 功
 舟 橋 喜 恵 福 田 幸 夫
 櫃 田 倍 之 西 田 芳 郎

編 集 後 記

飛翔は着実に「軟化」しています。創刊号より目を通されている方は、内容がしだいに堕ちていると感じているかもしれません。編集が拙いせいでもあります。しかしある意味でこのことは私達自ら望んだ結果でもあるのです。内容をもっと“おもしろく”もっと読者の関心をひくような、特に学生にアピールできるような話題を組むこと。それがここ当分、私達が飛翔を編集するにあたっての方針です。なぜか、その理由をここで書こうと思いましたが—やめま。この種の雑誌が果して“おもしろく”なければならないのかどうか、編集委員が企画を考え特集を組み原稿を依頼するという形で終始してよいのか、飛翔の理想的な姿とは何なのかということを見んなに考えてもらいたいからです。

今度の特集のためにいろんなところに原稿を依頼して回った時、所属学生の論文を集めて雑誌を出すコースや群のあることを知りました。とてもやる気に溢れていてそれはそれで良い事だと思う反面、急に自分のやっていることが虚しくなりました。飛翔

っていったい何なのでしょう。新たに雑誌を創るほどに意見を発表する場を必要としているのであれば、せめて飛翔に投稿してください。多くの人の目にふれて群やコースを超えたいろんな所からの批判や反論が期待できると思うのですが、どうでしょうか。

(裕)

時々、ナンデコガンコトシヨルトヤロツテ思ウトバツテンガ、結局ミンナデ、ヒトツモンバ作ルトノ楽シカケンサ。誰カシテミンヤ。

(浜)

あはらしさに耐えながら、がんばっています。

(田村)

ついこの間、編集に参加したばかりで、もう編集後記なんで、おこがましくて……

(正恵)

空を見あげると、白い空、青い雲……ムムッ。どっと疲れの見える今日この頃です。

(リミ)

片手にFORTRAN、片手に原稿用紙。(耕)
 今のとこ、何とか落っこちずにいます。それはともかく巨人には浮上してほしいですネ。新浦さん、頑張ってェ!
 (ビセツ)

